

青森県経済統計報告

平成 28 年 10 月 31 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口(平成 28 年 10 月 1 日現在)..... 1

県人口	1,293,681 人 (対前月 528 人減少)
自然動態	594 人減少 (出生者数 742 人、死亡者数 1,336 人)
社会動態	66 人増加 (転入者数 1,478 人、転出者数 1,412 人)

2 本県の経済動向 (平成 28 年 8 月・9 月の経済指標を中心として)

(1) 経済概況

本県経済は、緩やかに持ち直している。
景況感(青森県景気ウォッチャー調査結果)をみると、現状判断DIは前期比5.1ポイント減少の43.2となり、先行き判断DIは現状判断DIより高い48.2となった。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・平成 28 年 8 月の**青森県鉱工業生産指数**(平成 22 年=100)は、季節調整指数が 105.4 で、前月比 10.6%の低下となり、3 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 103.0 で、前年同月比 0.1%の上昇となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用労働 ・平成 28 年 8 月の**定期給与**は 212,072 円で前年同月比 1.1%減となった。**総実労働時間**は 148.4 時間で前年同月比 1.1%減、**所定外労働時間**は 9.3 時間で前年同月比 12.3%減となった。
・平成 28 年 9 月の**有効求人倍率**(季節調整値)は 1.11 倍で、前月を 0.01 ポイント上回った。
・**雇用保険受給者実人員**は 6,143 人で、前年同月比 12.5%減となった。 ... 3
- (2-3) 物 価 平成 28 年 9 月の**青森市消費者物価指数**(平成 27 年=100)は、総合指数が 99.4 となり、前月比 0.1%の上昇、前年同月比 0.8%の下落となった。また、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は 100.4 となり、前月比 0.1%の下落、前年同月比 0.2%の上昇となった。 ... 5
- (2-4) 個人消費 ・平成 28 年 8 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 151 億円で前年同月比 2.4%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 3.5%減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 28 年 9 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 4,146 台で、前年同月比 2.3%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 28 年 9 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 957 千人で前年同月比 6.4%減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 138 千人で前年同月比 1.9%減となり、4 か月ぶりに前年同月を下回った。 ... 6
- (2-5) 建 設 ・平成 28 年 8 月の**新設住宅着工戸数**は 543 戸で、前年同月比 18.3%増となり、7 カ月連続で前年同月を上回った。
・平成 28 年 9 月の**公共工事請負額**は 236 億 7,900 万円で前年同月比 36.9%増となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 7
- (2-6) 企業倒産 平成 28 年 9 月の**企業倒産**は、件数は 9 件で前年同月比 125.0%増となった。負債総額は 7 億 4,800 万円で前年同月比 65.1%増となった。 ... 8

(3) 景気動向指数CI (平成 28 年 8 月分) 9

先行指数	98.4 (前月を 0.2 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した)
一致指数	152.5 (前月を 14.4 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した)
遅行指数	116.0 (前月を 0.1 ポイント上回り、4 カ月ぶりに上昇した)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成 28 年 10 月期) 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断DI	43.2(前期比 5.1 ポイント減、5 期連続で 50 を下回る)
3 カ月後の景気の先行き判断DI	48.2(前期比 0.2 ポイント増、2 期連続で 50 を下回る)

1 青森県の推計人口（平成28年10月1日現在）

【概況】

平成28年10月1日現在の本県推計人口は、1,293,681人で、前月に比べ528人の減少となった。

○自然動態

出生者数が742人、死亡者数が1,336人で、594人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,478人、転出者数が1,412人で、66人の増加となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数			社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女			出生者数	死亡者数	自然増減数			
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
27.11.1	1,307,463	614,296	693,167	-0.061%	-802	-774	707	1,481	-28	1,447	1,475
27.12.1	1,306,631	613,926	692,705	-0.064%	-832	-758	745	1,503	-74	1,057	1,131
28.1.1	1,305,721	613,506	692,215	-0.070%	-910	-782	724	1,506	-128	1,052	1,180
28.2.1	1,304,593	612,919	691,674	-0.086%	-1,128	-889	777	1,666	-239	912	1,151
28.3.1	1,303,392	612,373	691,019	-0.092%	-1,201	-881	662	1,543	-320	1,088	1,408
28.4.1	1,297,378	609,235	688,143	-0.461%	-6,014	-740	743	1,483	-5,274	3,828	9,102
28.5.1	1,297,165	609,299	687,866	-0.016%	-213	-715	711	1,426	502	3,450	2,948
28.6.1	1,296,266	608,773	687,493	-0.069%	-899	-731	707	1,438	-168	1,254	1,422
28.7.1	1,295,463	608,413	687,050	-0.062%	-803	-641	689	1,330	-162	1,126	1,288
28.8.1	1,294,831	608,132	686,699	-0.049%	-632	-532	716	1,248	-100	1,637	1,737
28.9.1	1,294,209	607,941	686,268	-0.048%	-622	-641	803	1,444	19	1,752	1,733
28.10.1	1,293,681	607,729	685,952	-0.041%	-528	-594	742	1,336	66	1,478	1,412

9月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平18.9	19.9	20.9	21.9	22.9	23.9	24.9	25.9	26.9	27.9	28.9
自然動態	出生者数	940	765	905	807	810	781	736	750	831	736	742
	死亡者数	1,086	1,042	1,167	1,219	1,297	1,224	1,181	1,273	1,434	1,328	1,336
	自然増減数	-146	-277	-262	-412	-487	-443	-445	-523	-603	-592	-594
社会動態	県外からの転入者数	1,590	1,710	1,688	1,538	1,571	1,474	1,382	1,563	1,528	1,521	1,478
	県外への転出者数	1,872	2,020	1,828	1,678	1,493	1,584	1,491	1,498	1,491	1,622	1,412
	社会増減数	-282	-310	-140	-140	78	-110	-109	65	37	-101	66
増減数計		-428	-587	-402	-552	-409	-553	-554	-458	-566	-693	-528

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年10月1日現在の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を用いているため、9月1日現在の推計人口に9月中の増減数を加えた数値とは一致しない。

※3 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※4 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※5 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

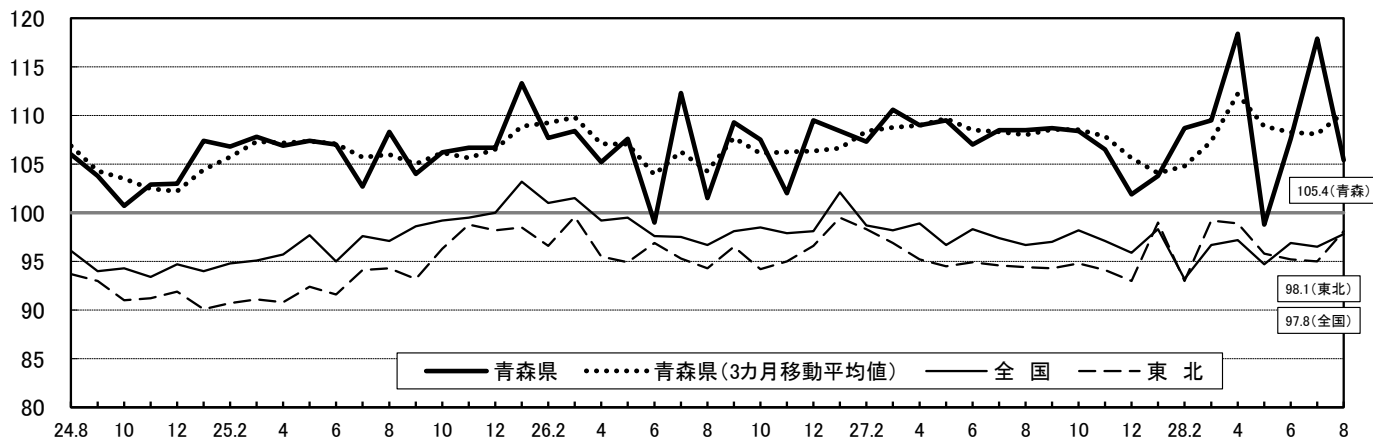
(2-1) 生産動向

平成28年8月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が105.4で、前月比10.6%の低下となり、3カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は103.0で、前年同月比0.1%の上昇となり、3カ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電子部品・デバイス工業、非鉄金属工業、石油・石炭製品工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、生産用機械工業、業務用機械工業などが低下し、鉱工業全体では10.6%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

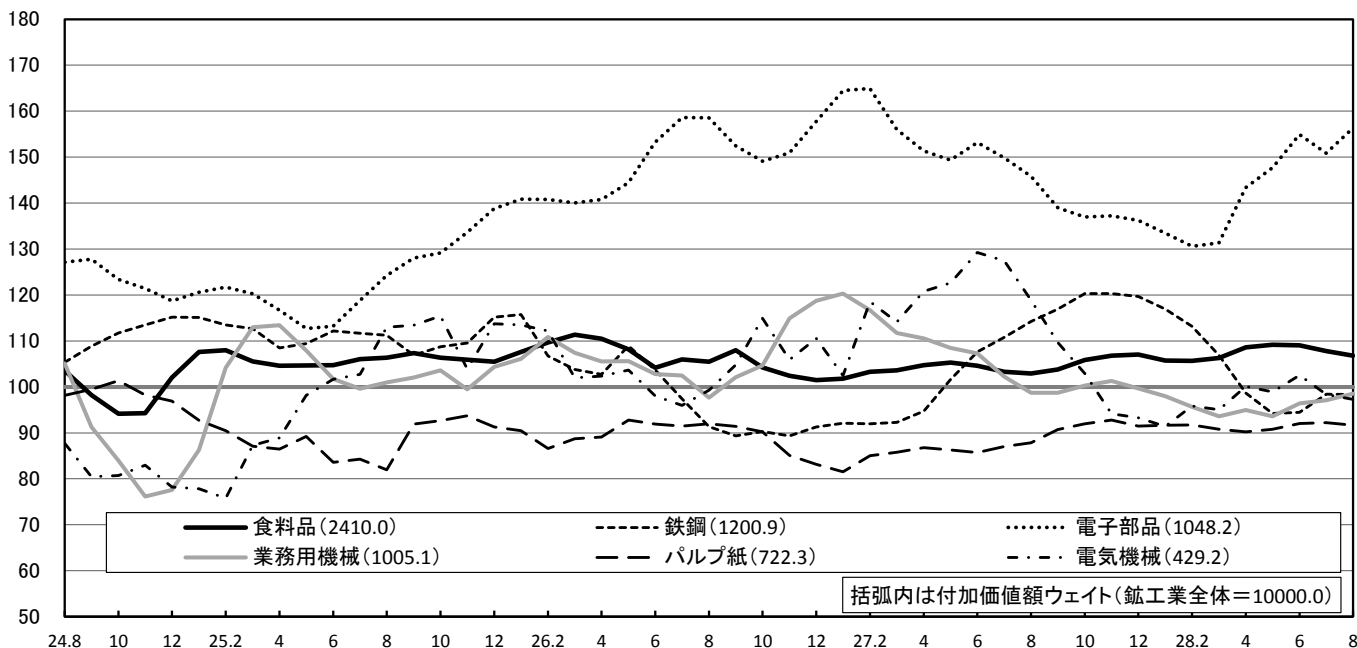


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -10.6%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電子部品・デバイス工業	5.5	5.3	化学工業	-87.9	-51.8
非鉄金属工業	14.0	2.8	生産用機械工業	-68.6	-36.7
石油・石炭製品工業	39.1	1.4	業務用機械工業	-13.1	-8.4
繊維工業	4.1	1.0	食料品工業	-3.7	-5.8
はん用機械工業	54.7	0.9	鉄鋼業	-7.7	-5.7

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成22年=100)



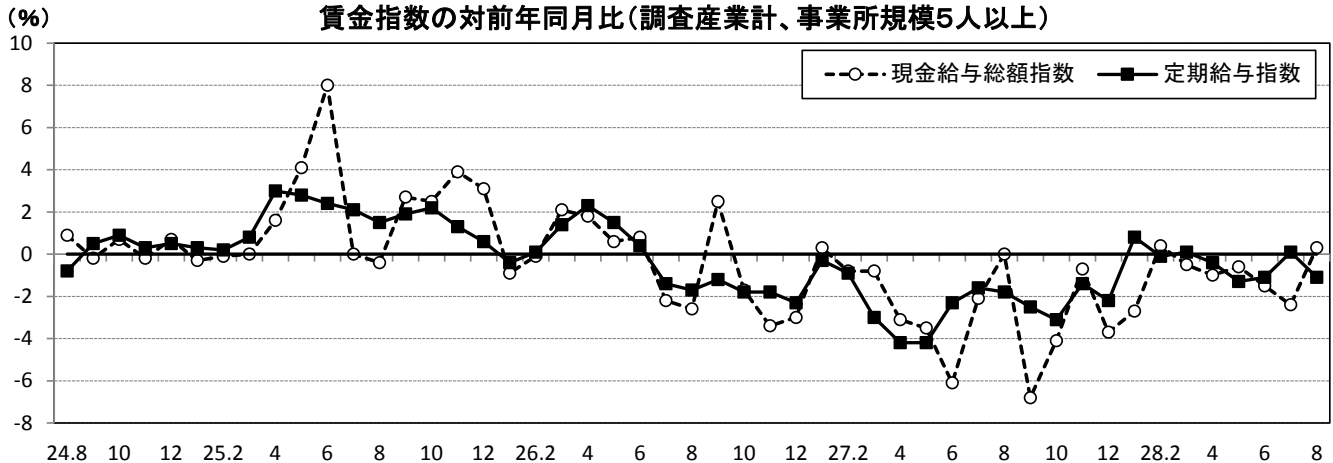
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成28年8月の定期給与は212,072円で定期給与指数（平成22年=100）では96.3となり、前年同月比1.1%減と2カ月ぶりの減（現金給与総額229,871円、現金給与総額指数89.1、前年同月比0.3%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は82.1となった。

総実労働時間は148.4時間で、総実労働時間指数は96.0となり、前年同月比1.1%減と5カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は9.3時間で、所定外労働時間指数は102.2となり、前年同月比12.3%減と2カ月ぶりの減となった。



賃金及び労働時間の動き（調査産業計、事業所規模5人以上）

	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	229,871 円	272,149 円	89.1	85.9	0.3 %	0.0 %
定期給与	212,072 円	258,464 円	96.3	98.3	-1.1 %	0.1 %
特別給与	17,799 円	13,685 円	—	—	—	-0.5 %
総実労働時間	148.4 時間	140.3 時間	96.0	95.7	-1.1 %	-0.8 %
所定内労働時間	139.1 時間	130.1 時間	95.6	95.4	-0.3 %	-0.7 %
所定外労働時間	9.3 時間	10.2 時間	102.2	100.0	-12.3 %	-2.0 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

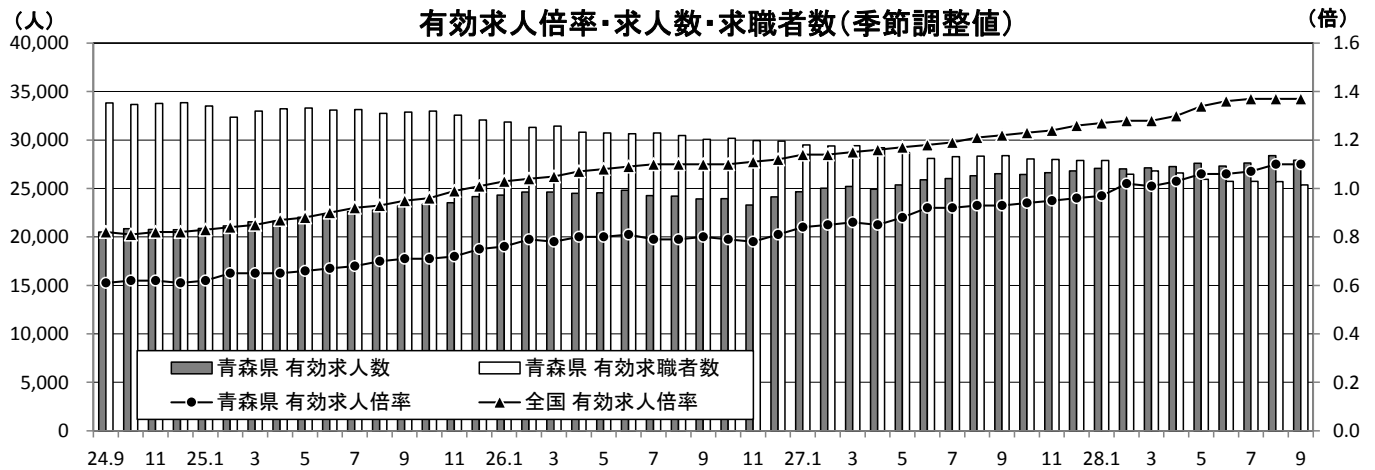
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

(2-2-2) 有効求人倍率

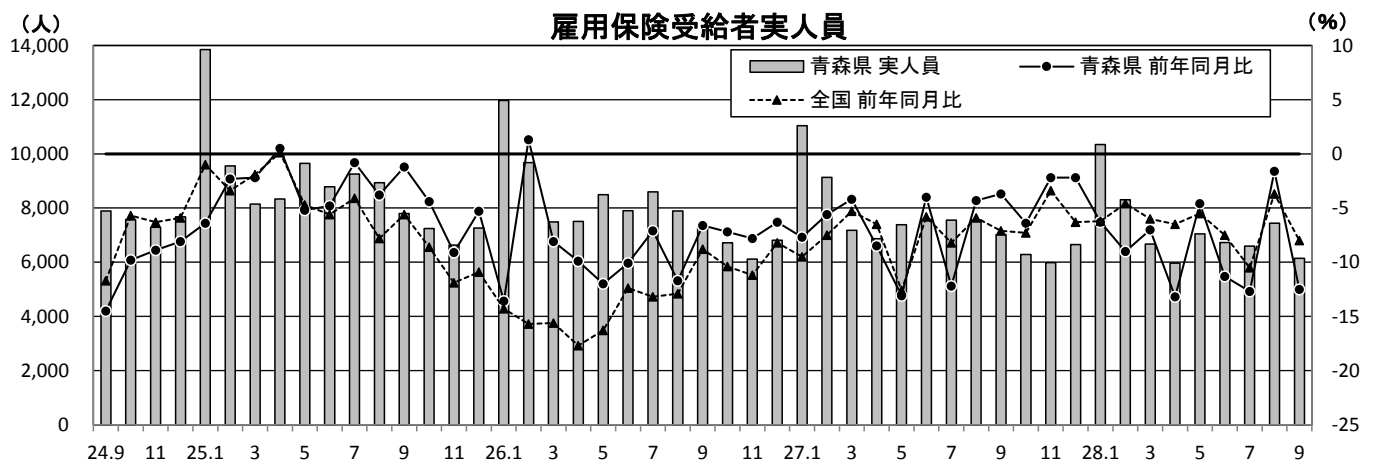
平成28年9月の有効求人倍率(季節調整値)は1.11倍で、前月を0.01ポイント上回り、過去最高となった。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-2-3) 雇用保険受給者数

平成28年9月の雇用保険受給者実人員は6,143人で、前年同月比12.5%減となり、31カ月連続で前年同月を下回った。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省「雇用保険事業月報」

(2-3) 物価

平成28年9月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が99.4となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.8%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は99.3となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.7%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は100.4となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.2%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料(生鮮野菜など)、被服及び履物(シャツ・セーター・下着類など)などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.8%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、交通・通信(自動車等関係費など)などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

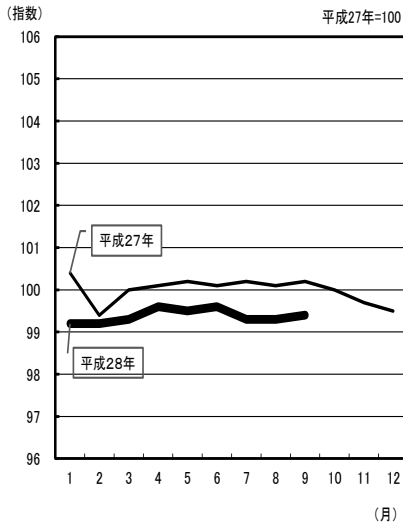


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

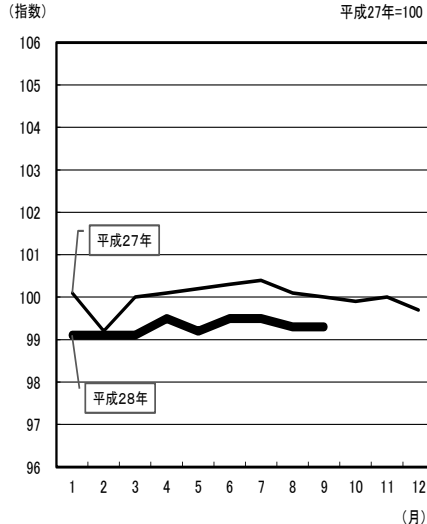
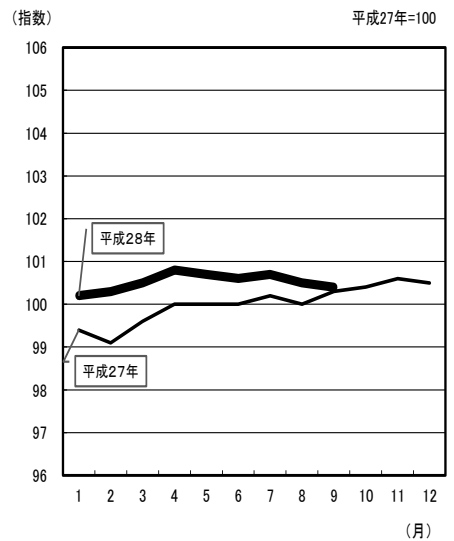


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家用	被服及び履物	服	保	健康	交通・通信	教育	教	養	諸	雑費
当月指数	99.4	99.3	99.3	100.4	102.2	101.8	100.4	90.5	97.9	102.3	100.8	96.2	102.0	101.9	101.1				
前月比(%)	0.1	0.0	0.1	▲0.1	0.5	1.9	0.0	▲0.3	0.6	3.1	0.1	▲0.9	0.0	▲0.2	▲0.3				
寄与度	—	▲0.02	0.07	▲0.05	0.13	0.09	0.00	▲0.03	0.03	0.09	0.00	▲0.11	0.00	▲0.01	▲0.02				
前年同月比(%)	▲0.8	▲0.7	▲0.9	0.2	1.1	▲2.3	0.3	▲7.4	▲1.2	1.0	0.7	▲3.8	1.6	0.7	0.9				
寄与度	—	▲0.66	▲0.79	0.09	0.29	▲0.11	0.07	▲0.80	▲0.05	0.03	0.03	▲0.50	0.04	0.05	0.05				

資料:県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

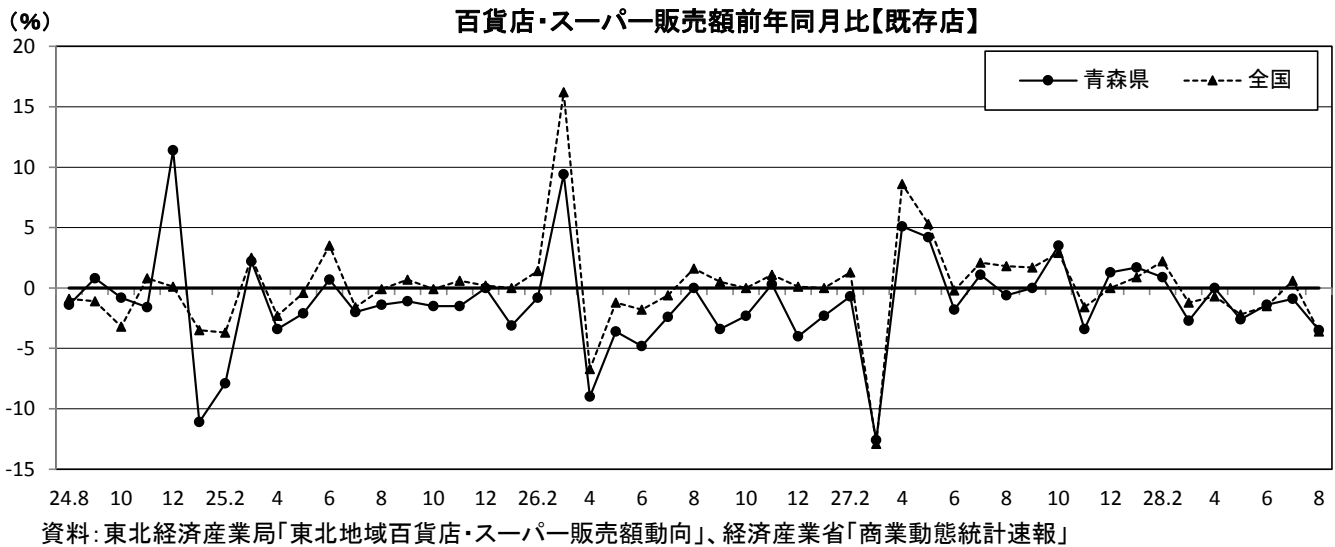
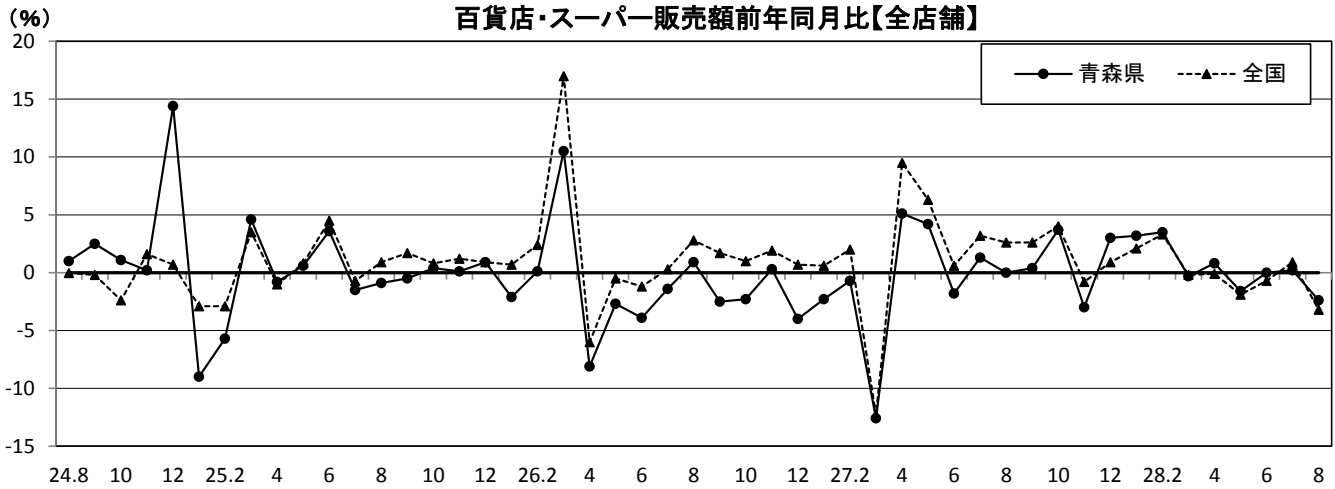
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

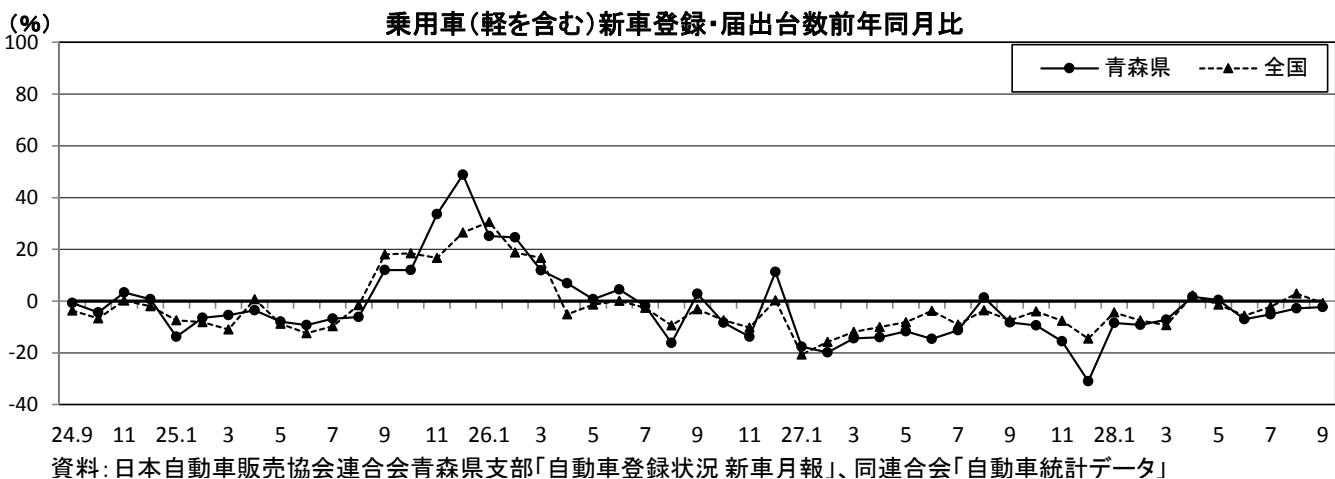
平成28年8月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが151億円で前年同月比2.4%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.5%減となり、6カ月連続で前年同月を下回った。



* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

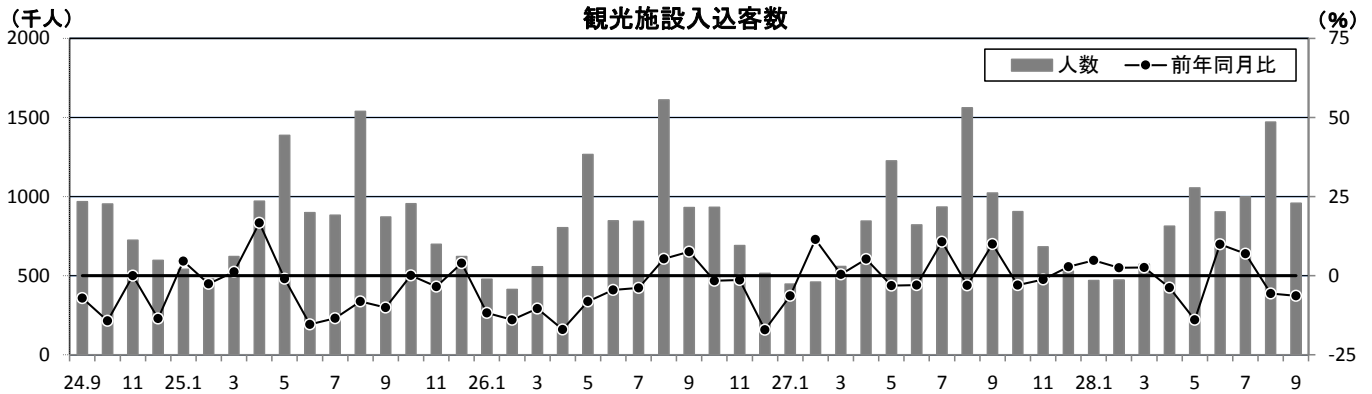
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

平成28年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,146台で、前年同月比2.3%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。小型車、軽乗用車が減少したことによる。

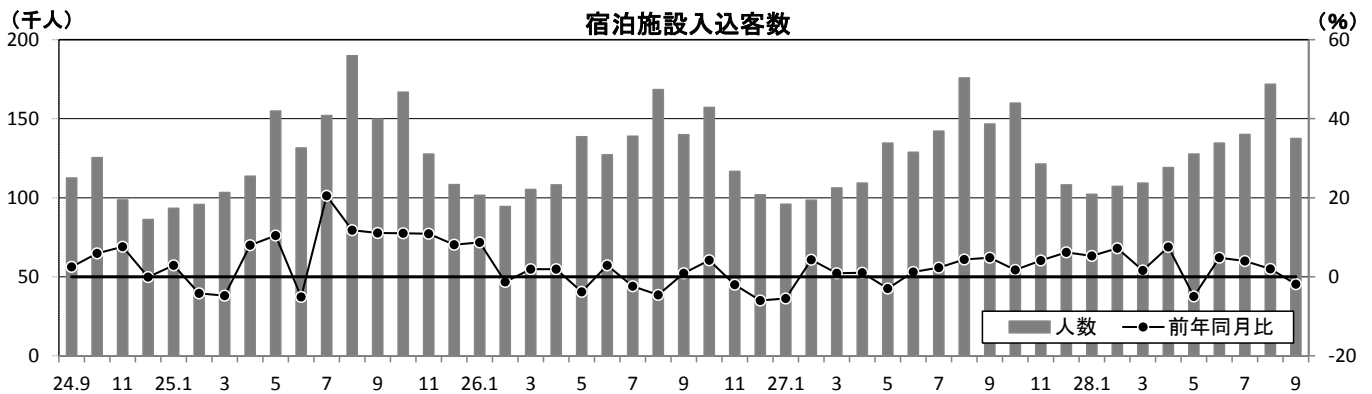


(2-4-3) 観光入込客数

平成28年9月の観光入込客数は、主な観光施設が957千人で前年同月比6.4%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は138千人で前年同月比1.9%減となり、4カ月ぶりに前年同月を下回った。観光施設は青森市、八戸市、弘前市等の施設で減少し、宿泊施設はむつ市、弘前市等の施設で減少したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設 (H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比)

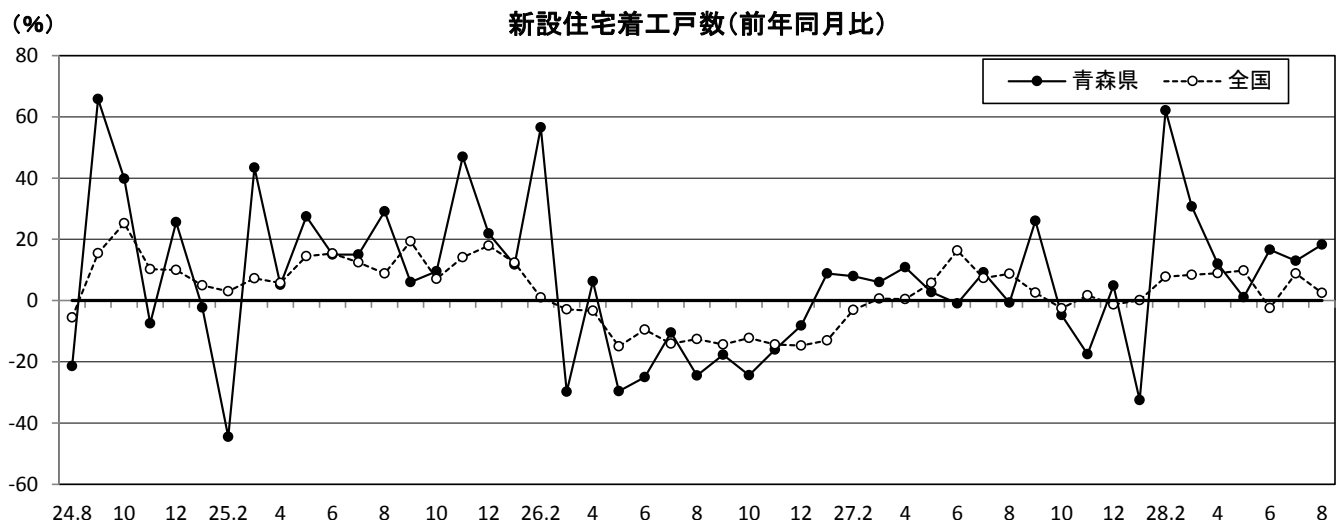


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設54施設 (H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は54施設、H28年7月以降は53施設対比)

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

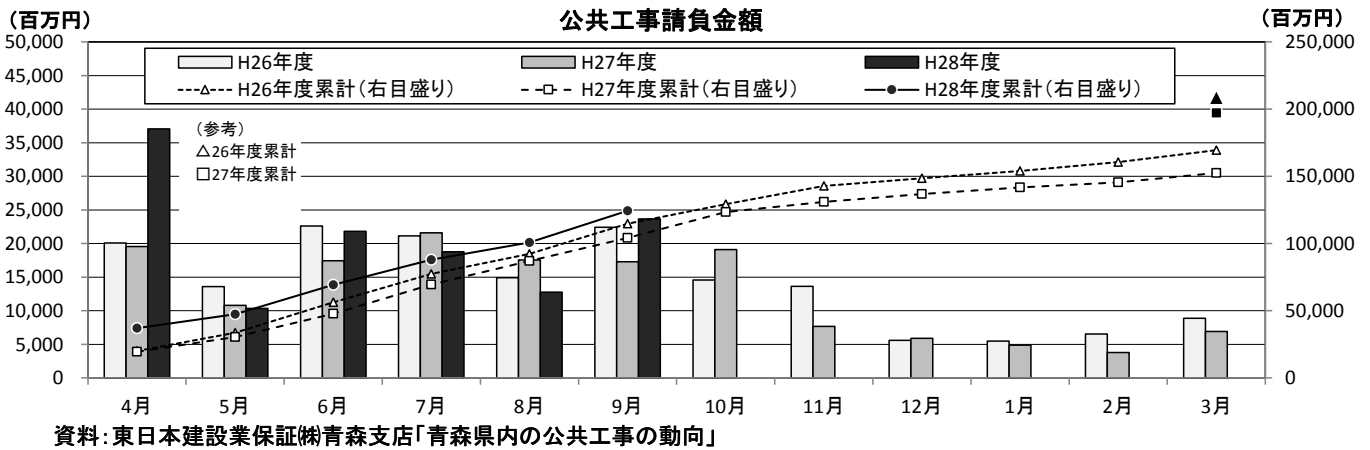
平成28年8月の新設住宅着工戸数は543戸で前年同月比18.3%増となり、7カ月連続で前年同月を上回った。持家、貸家等が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

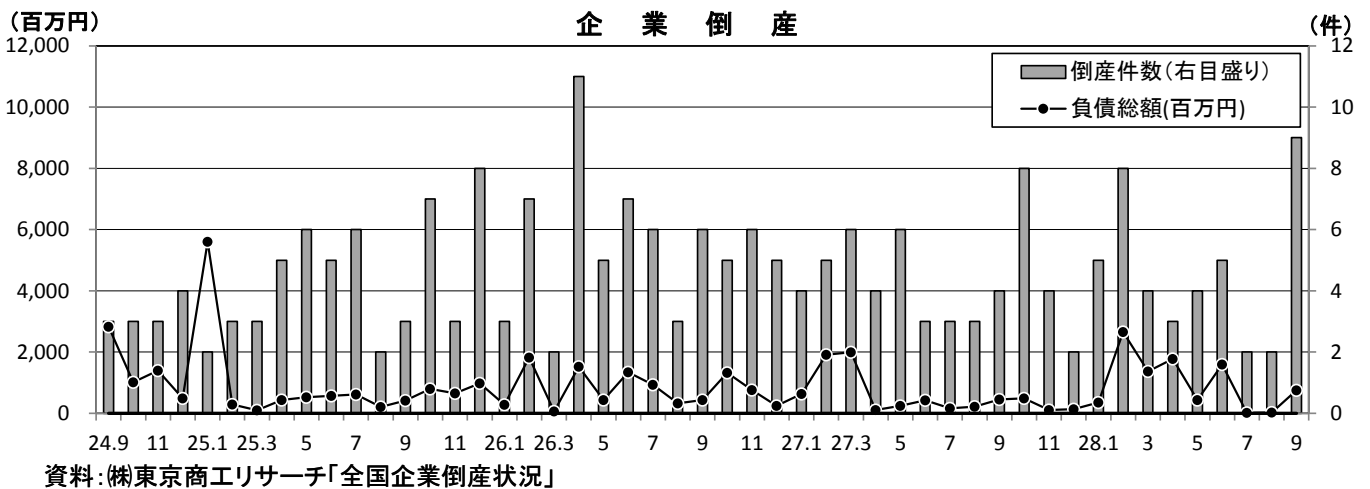
(2-5-2) 公共事業

平成28年9月の公共工事請負金額は236億7,900万円で前年同月比36.9%増となり、国、県の増加により3カ月ぶりに前年同月を上回った。また、9月までの累計金額は1,244億2,100万円で前年同期比19.3%増となった。



(2-6) 企業倒産

平成28年9月の企業倒産は、件数は9件で前年同月比125.0%増となった。負債総額は7億4,800万円で前年同月比65.1%増となった。負債総額の増加は、倒産件数が増加したことによる。



(3) 青森県景気動向指数

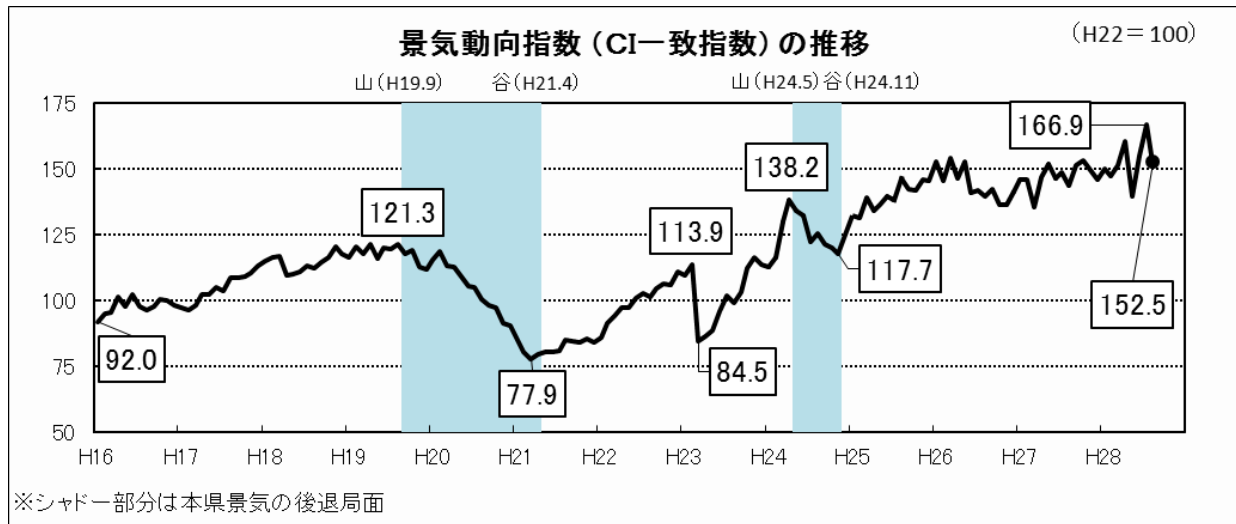
平成28年8月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 98.4、一致指数 152.5、遅行指数 116.0 となった。

先行指数は、前月を 0.2 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した。

一致指数は、前月を 14.4 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 0.1 ポイント上回り、4 カ月ぶりに上昇した。

8月の一致指数は生産・雇用関連の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
日経商品指数（42種）	2.00	2カ月連続	新規求人倍率（全数）	-4.84	2カ月ぶり
中小企業景況DI	1.29	2カ月ぶり	建築着工床面積	-0.14	2カ月連続
新設住宅着工床面積	0.86	2カ月ぶり			
乗用車新車登録届出台数	0.50	2カ月連続			
生産財生産指数	0.24	2カ月ぶり			
企業倒産件数	0.05	2カ月連続			
一致系列					
旅行取扱高	0.46	3カ月連続	鉱工業生産指数	-5.60	3カ月ぶり
輸入通関実績（八戸港）	0.24	2カ月連続	所定外労働時間指数（全産業）	-4.39	3カ月ぶり
			投資財生産指数	-1.92	2カ月連続
			有効求人倍率（全数）	-1.80	2カ月ぶり
			百貨店・スーパー販売額（既存店）	-1.42	3カ月ぶり
遅行系列					
りんご消費地市場価格	2.19	5カ月ぶり	常用雇用指数（全産業）	-3.57	2カ月ぶり
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	1.51	3カ月ぶり	公共工事請負金額	-0.48	2カ月連続
青森市消費者物価指数（総合）	0.36	2カ月ぶり	県内金融機関貸出残高	-0.14	2カ月連続
			有効求職者数（全数）	-0.07	3カ月ぶり

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数（D I）		
先行指数	87.5%	（5カ月連続で50%を上回った）
一致指数	42.9%	（3カ月ぶりに50%を下回った）
遅行指数	28.6%	（2カ月連続で50%を下回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成28年10月期）

現状判断DIは、節約志向の高まりや天候不順による個人消費の停滞等から、前期比5.1ポイント減少の43.2となった。

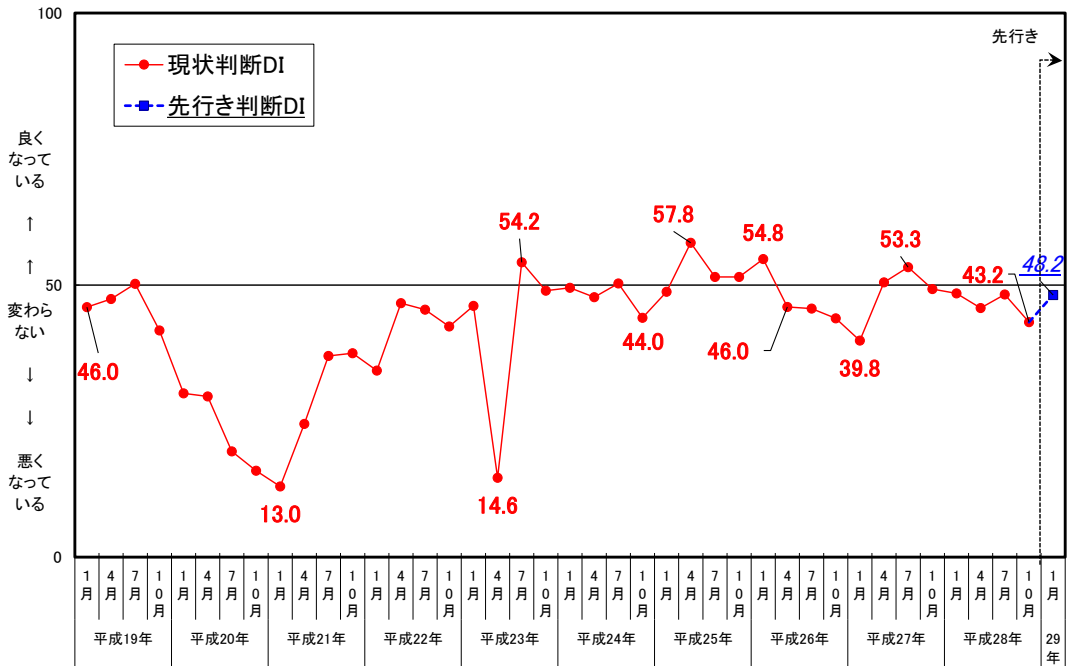
先行き判断DIは、個人消費の低迷等、先行きに懸念があるものの、年末年始商戦等への期待感があることから、現状判断DIと比べて5.0ポイント増加の48.2となった。

3カ月前と比べた景気の現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を5期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。

(調査期間 平成28年10月3日～10月13日 回答率99%)

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気の現状判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が同水準、「やや良くなっている」が6.9ポイント減少、「変わらない」が3.5ポイント減少、「やや悪くなっている」が7.3ポイント増加、「悪くなっている」が3.1ポイント増加したことにより、全体では5.1ポイント減少の43.2となり、景気の横ばいを示す50を5期連続で下回った。</p> <p>判断理由では、デスティネーションキャンペーン等による県外観光客の増加や低金利による住宅建設販売が好調などプラス面をあげる声があった一方で、節約志向の高まりや天候不順による百貨店や外食産業の販売不振といったマイナス面をあげる声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、4地区の全てでポイントが減少し、いずれも景気の横ばいを示す50を下回った。</p>
--------	---

● 3カ月後の景気の先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が3.0ポイント増加、「やや良くなる」が2.8ポイント減少、「変わらない」が0.6ポイント増加、「やや悪くなる」が3.8ポイント減少、「悪くなる」が3.1ポイント増加したことにより、全体では0.2ポイント増加の48.2となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。</p> <p>判断理由では、冬季商品の販売や年末年始の商戦、インフラ整備の動きに期待するという声があった一方で、長引く個人消費の低迷、天候不順による農水産物の価格高騰等への先行き不安を懸念する声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、東青地区、津軽地区で増加し、県南地区、下北地区で減少した。2地区で景気の横ばいを示す50を上回った。</p>
--------	--

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- 今年観光シーズンに県外のお客が多いように思った。(レストラン=東青)
- 住宅ローンが低金利のため。(住宅建設販売=県南)
- 秋の旅行シーズンでお客様の動きはあるが、単価の安い旅行に集中している。(旅行代理店=東青)
- 宿泊関係はDCの影響もあり多少上向いたが、全体的な売上は前年並みである。(都市型ホテル=東青)
- 衣料品の売上が苦戦している。(百貨店=津軽)
- 上昇要因が見当たらない。消費者は不要不急の支出を抑えているように感じられる。(ガソリンスタンド=県南)
- 売上の低迷。お客様の買い方が節約志向になっている。無駄なものは買わない。「安くて良い商品」が主流。(スーパー=下北)
- 建設業は公共工事中心に良く、貨物運送業も良好な状況が続いているが、個人消費は夏場低迷が続いた。宿泊サービス関係は青函DCもあり、やや良い状況であった。(経営コンサルタント=東青)
- 前回の海外経済の不透明感による景況感の悪化に代わり、原料高騰により景況感は停滞していると感じるから。(食料品製造=県南)
- 顧問先企業でも賃上げしているところが多々見られるのだが、それが消費に結びつかない。企業の設備投資意欲も強くはならない。(経営コンサルタント=県南)
- 月により出荷数量が良かったり悪かったり、以前よりムラが感じられる。市場の雰囲気停滞感あり。(飲料品製造=県南)
- △ 税引後の収入が増えていない為、住宅ローンを組む人達が返済金額を抑えて借入れしている。(住宅建設販売=津軽)
- △ 天候不順や節約志向の高まりのためか、衣料品、食料品、住生活関連とも全般的に消費が伸び悩んでいる。(百貨店=県南)
- △ 天候が不順で客足が伸びない様に感じられる。何の要因かはっきり分らないが冷え込みつつある。(一般飲食店=県南)
- △ 受注物件数が減少しており、単価面でも更に厳しい状況が続いている。(広告・デザイン=津軽)
- △ 円高進行により日本製設備の売れ行きが鈍ってきたとの情報があり、受注は微減。また中国やアジアの投資意欲も低めである。(電気機械製造=県南)
- × 理由が何か解らないのですが、客足が鈍く、購買意欲が落ちている気がします。(一般小売店=下北)

● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- 冬季商品(スタッドレスタイヤ、除雪用品)が売れる時季になるため。(家電量販店=東青)
- 若干ではあるが、市内においてインフラ整備が目につくようになった。人・物・金が動き始めたように感じます。(パチンコ=東青)
- 年末にかけて人の動きが期待できる。(タクシー=下北)
- 変化する要素がない。(乗用車販売=津軽)
- 業者間の競争が激しく、利益も少なく、従業員の待遇改善等も難しい。(住宅建設販売=津軽)
- 政府の景気浮揚の効果が末端に届くのが難しい気がする。(卸売業=県南)
- 消費税増税の延期はあるものの、先行き不透明なため良くも悪くも大きな変化なし。(観光型ホテル・旅館=県南)
- 良くなる要素もないものの、大幅に悪くなると思えない。(都市型ホテル=下北)
- 出来秋を迎え野菜の高値が続いており、米、リンゴ、ホタテ等も期待出来ると思われる。建設、貨物運送業も好調を持続している。反面、個人消費は伸び悩みが続いており、漁業ではサバの水揚げが遅れているので、全体としては横ばいか。(経営コンサルタント=東青)
- 業界とすれば需要期に入っていくが、先行きに不透明感あり。盛り上がり欠けそうな気がする。(飲料品製造=県南)
- 雇用安定に伴う法律の改正や最低賃金の値上げ等、労働者へ対しての処置が良くなる反面、雇用側企業の負担が大きくなり、対策が追いついていないように見受けられるので、結果に結びつくまではまだ時間が掛かると感じております。(人材派遣=東青)
- 年末年始への期待感はあるものの、これといった上昇要因が見当たらない。(新聞社求人広告=津軽)
- △ オフシーズンの集客は全く例年と変わらないか、むしろ函館に全国の目が向いているマイナスの効果を心配する。(観光型ホテル・旅館=東青)
- △ 不要不急の消費を控えるなど相変わらず購買行動が慎重になっていると思われるため。(百貨店=県南)
- △ 北海道の台風被害、海水の高温度等、農水産物の値上がり予想される為。(食料品製造=下北)
- × 景気が悪くなると売上げを下げたくない為、利益率を減らしても売ようになる。デフレスパイラルですか。(ガソリンスタンド=津軽)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」